

イメージの違いによる楽曲の受け取り方の変化 -歌詞解釈の前後における共感性の比較-

Changes in how music is perceived due to differences in image
- Comparison of empathy before and after lyric interpretation -

清水一毅

Kazuki SHIMIZU

湘北短期大学

Shohoku College

【抄録】

本論文では、楽曲を聴くときに歌詞の解釈が楽曲の受け取り方および共感性にどのような影響を与えるのかという点に注目して調査を行う。

本調査では、歌詞の意味および音楽作成の背景を解釈する前後において、楽曲の受け取り方、楽曲への共感性についてのアンケート調査を行った。また、回答理由を自由記述にて求めた。その結果、受け取り方や共感性に有意な差はみられなかった。しかし共感性の低下した聴取者が3名おり、その理由として、「歌詞の内容について経験していないため、わからない。」といった意見がみられた。このことから、楽曲との類似経験があることが楽曲への共感性を高めるための要因となるのではないかということが示唆された。

【キーワード】 楽曲、イメージ、解釈、共感性、受け取り方

1. 目的

私たちの日常生活の中には音楽があふれている。例えば、音楽プレーヤーを用いて音楽そのものを聴いて楽しむほか、街中でのBGM、映画やアニメ作品の主題歌や挿入歌、テレビ番組、ラジオ、CM等いたるところで音楽に触れている。その中でも特に、能動的に音楽を視聴するとき、人はさまざまな情動体験をしており、音楽聴取中の情動は「音楽情動」と呼ばれ、多くの研究から様々な知見が得られてきた。そのような音楽情動を引き起こす要因として、大村ら(2013)は音程変化やリズム、形式、調性、音色などを挙げている。

歌詞も音楽情動を引き起こす要因のひとつであることが考えられる。森(2010)は、大学生および、社会人を対象とした質問紙調査を行うことによって、日常の音楽聴取において歌詞がどのように捉えられているか、また、歌詞はどのような役割を果たしているかについて、探索的に検討している。その結果、

「歌詞に感情移入するため、歌詞が多くの人に重要視されていること」「歌詞は情動を喚起するために重要な役割を担っており、聞きやすく軽快な音楽を好んで聴取する人に重要視されていること」を明らかにし、“音楽聴取において歌詞は欠かすことのできない要素である”と結論付けている。

小河ら(2016)は多次元共感性尺度(鈴木・木野、2008)および感情価測定尺度(谷口、1995)を用いた質問紙調査を行い、加えて歌詞の共感部分を問う質問、共感理由を自由記述で問う質問の2項目を追加調査として行っている。この調査によって、楽曲の歌詞の有無がどのように感情変化に影響を及ぼすかについて検討している。さらに、聴取者の共感性能力が感情反応に影響するか否かという点についても検討を加えている。その結果、聴取者の共感性の程度にかかわらず、歌詞の有無が音楽聴取後の感情価4因子(高揚・軽さ・親和・強さ)に影響を及ぼすことが明らかとされた。また、歌詞の有無にかかわらず、共感性高群が共感性低群に比べて“親和”感

情の感情価が高かったことが示された。つまり、共感性が高い人ほど、楽曲を聴くときに穏やかさや優しさなどの親和的感情が影響を受け変化するという。このことから、共感性の高さが音楽聴取時の感情変化に重要な役割を果たすとしている。

これらの調査から、楽曲を聴くときに歌詞は重要な役割を担っており、歌詞への共感性が楽曲を聴いた時の親和的な感情変化に影響を与えていることがわかる。しかしながらこれらの調査では、歌詞の有無と共感性の程度との交互作用については確認されておらず、歌詞への共感性はどのようにして高まるのかといったことについては明らかにされていない。そこで、本研究では歌詞への共感性を高める要因として「歌詞解釈の理解度が高いこと」「楽曲制作の背景を知り、楽曲イメージを持つこと」の2要因を挙げ、これらの要因が歌詞への共感性にどのような影響を与えるのか調査することとした。

2. 方法

対象:

関東圏に在住する大学生 11 名を対象とした。調査に先立ち、口頭で本調査の趣旨を説明した。また、個人が特定されることのないよう、データの取り扱いに細心の注意を払うことを説明し、同意を得た。

調査期間:

本研究は、20XX 年 10 月に行われた。

調査方法:

本研究は Google フォームを利用したアンケート調査によって行われた。調査では、回答を 5 件法で求め、楽曲の受け取り方(1:まったく良いと感じなかった~5:とても良いと感じた)、楽曲への共感性(1:まったく共感しなかった~5:とても共感した)、楽曲の理解度(1:まったく理解できていない~5:とても理解できている)の 3 項目を設定した。さらに、楽曲の受け取り方および楽曲への共感性の項目に関して回答を選んだ理由について、自由記述で回答を求めた。また、個人内での変化量を見るために、被験者にはランダムで

A~K のコードを付した。

楽曲は Hump Back による“拝啓、少年よ”を用いた。なお、事前調査により被験者には本楽曲の視聴経験がないことが確認されている。調査は 1 つの教室内で全員同時に、以下の手続きにて行われた。

(1)楽曲を聴かせた後、前述の 3 項目に対する回答を求め、回答理由について自由記述にて回答を求めた。

(2)全員の回答後、歌詞カードを配布し、歌詞を読みながら歌われている内容についての確認をした。その際、解釈が難解な部分や日本語の意味等について被験者から質問が挙がった場合、全員に対して筆者が補足で説明を行った。

歌詞を把握した後は、楽曲制作の背景をより深く把握するため、本楽曲を歌っているアーティストである Hump Back についての説明を行った。説明の内容は「学生時代に結成されたバンドであること」「一度挫折してボーカル以外のメンバーが脱退してしまったこと」「数年間ボーカルのみでソロ活動をしていたが、なかなか日の目を見ることがなかったこと」「その後、新規のメンバーが加入し、現体制のバンドになったこと」であった。また、補足情報としてボーカルがソロ活動をしていた時に制作した楽曲である“うたいたいこと”を聴かせた。“うたいたいこと”では、ソロ活動がうまくいかないことに対する葛藤が歌われており、より楽曲制作の背景に対する理解が進むと考えた。

(3)歌詞解釈および、楽曲制作の背景についての説明の後、再び楽曲を聴かせ 3 項目に対する回答を求め、回答理由について自由記述にて回答を求めた。

3. 結果

(1)アンケート調査の結果

調査の結果を Table 1~Table 3 に示す。楽曲の受け取り方について、歌詞解釈前では平均 4.27 点(SD = 0.62)、歌詞解釈後では平均 4.36 点(SD = 0.45)と、変化はほとんどみられなかった。また、統計的にも有意な差はみられなかった($t(10) = 1$, $p = .340$)。

楽曲への共感性について歌詞解釈前では

平均 3.54 点(SD= 0.87)、歌詞解釈後では平均 3.54 点(SD=1.27)と、変化はみられなかった。

楽曲の理解度について、歌詞解釈前では平均 3.09 点(SD=1.09)、歌詞解釈後では平均 4.18 点(SD=0.36)と、1 点以上のプラスの変化がみられた。また、統計的にも有意であった($t(10)=4.35$ 、 $p=.001$)。

(2)自由記述調査の結果

楽曲の受け取り方および楽曲への共感性の項目に対する回答理由について、自由記述にて回答を求めた結果を Table 4、Table 5 にまとめた。

楽曲の受け取り方についての自由記述では、初回に聴いた直後には単語の種類が数多く抽出され、ひと単語あたりの出現頻度も少なかった。しかし、解釈後では単語の種類が減り、ひと単語あたりの出現頻度は多くなる傾向がみられた。また、抽出単語の内容においては「歌詞」や「夢」といった歌詞の内容を示唆する語が増加し、さらに「過去」という楽曲制作の背景に関連する語が新たに抽出されている。

楽曲への共感性についての自由記述では初回に聴いた直後よりも解釈後の方が抽出された単語の種類が多く、ひと単語あたりの出現頻度には変化がみられなかった。抽出単語の内容においては「頑張る」に関しては変化がなかったものの、他の単語は全て違う単語に置き換わっている。特に直後では「叶える」が抽出されているが、解釈後には「諦める」という反対の意味を持つ単語が抽出されている。また、解釈後には「夢」「追いかける」「進む」といった単語の出現頻度が増加しており、楽曲の受け取り方同様、歌詞の内容や、楽曲制作の背景に関連する語が抽出されていることがわかる。

4. 考察

調査の結果から、歌詞を解釈することおよび制作背景を知ることにより、楽曲の理解度を深めることはできるが、楽曲の受け取り方や楽曲に対する共感性は変化しないということが示唆された。

Table 1

初回聴取直後および解釈後視聴における楽曲の受け取り方

被験者	直後	解釈後
A	3	3
B	4	4
C	4	4
D	4	4
E	3	4
F	5	5
G	5	5
H	5	5
I	5	5
J	4	4
K	5	5

Table 2

初回聴取直後および解釈後聴取における楽曲の共感性

被験者	直後	解釈後
A	2	2
B	4	3
C	4	4
D	3	4
E	2	2
F	4	3
G	4	5
H	4	3
I	4	5
J	3	3
K	5	5

Table 3

初回聴取直後および解釈後聴取における楽曲の理解度

被験者	直後	解釈後
A	3	4
B	3	5
C	4	4
D	2	4
E	1	3
F	4	5
G	3	4
H	2	4
I	4	5
J	4	4
K	4	4

Table 4
楽曲の受け取り方についての自由記述

	抽出単語	人数
直後	歌詞	4
	内容	3
	叶える	3
	頑張る	3
	その他	12
解釈後	夢	4
	諦める	3
	できる	3
	追いかける	2
	進む	2
	頑張る	2
	その他	10

Table 5
楽曲への共感性についての自由記述

	抽出単語	人数
直後	好き	5
	歌詞	4
	声	3
	曲調	2
	前向き	2
	背中	2
	押す	2
	夢	2
	盛り上がり	2
	その他	9
解釈後	歌詞	7
	夢	4
	曲	4
	過去	2
	その他	7

楽曲の受け取り方に関しては、11人の被験者のうち10人に変化がみられなかったことから、楽曲をどれだけ理解しているかという点は、楽曲の受け取り方の判断にはあまり影響を与えないということが考えられる。また、初回に聴いた直後の得点平均が4.27点と高得点であったことも変化がみられなかった理由として考えられる。自由記述の内容の変化について見てみると、初回に聴いた後では、記述内容に「歌詞がいい」といった歌詞に注目した記述内容に加え、「曲調やテンポが好き」「盛り上がる感じがいい」といった、楽曲の曲調やテンポに注目した記述が多くみられた。このことから初めて聴いた楽曲に対する受け取り方は、曲調やテンポ、歌詞等様々な要因によって決定づけられると考えられる。このことは大村ら(2013)の

“音楽情動を引き起こす原因として音に関する要素はもちろんの要素も含まれる。音に関する要素では例えば、基本的音の配置(音程変化やリズム)や音楽の構造(形式、調性、音色)である。更に、音以外の要素では、

音楽が持つ背景(作曲者はだれか、演奏者はだれかなど)、聴取者が持っている背景(好みのジャンル、年齢、性別など)そして聴取環境(コンサートホール、公共施設、実験室など)なども含まれる。”

といった主張と一致する。一方、歌詞解釈後に聴いた後の自由記述では、「歌詞の意味が深い」「バンド背景を知ることにより(中略)思いの詰まった曲だと感じる」というように歌詞の内容や楽曲制作の背景に関する記述が多くみられた。このことから、楽曲の理解が深まってから聴くことによって、歌詞やアーティストに対する感情移入といったものも楽曲に対する受け取り方を決定づける一要因になるのではないかと考えられる。

楽曲への共感性に関しては、統計上では全く変化がみられなかったものの、個別の変化を見てみると、共感性が高まった被験者が3名(D、G、I)、共感性が低下した被験者が3名(B、F、H)いることがわかる。歌詞解釈後における楽曲の理解度が深まり、楽曲への共感性が高まることは研究当初に想定していた通りの事象であった。共感性が高まった被験者の自由記述の内容の変化を以下に示す。

被験者Dの場合、「あんまり内容が分からない」から「解説を聞いてみて、ボーカルの方の夢が叶った歌に聞こえた」へと変化している。

被験者Gの場合、「心に響いた」から「歌詞を読み取ってから聴くと過去の挫折を乗り越えてまた歌えているのがいいと思った」へと変化している。

被験者Iの場合、「自分に問いかけられているような気がする」から「大きな夢を抱いている人だけではなく幅広い世代の人に視線を合わせて背中を押してくれるような曲だと感じた」へと変化している。

これらの内容の変化はいずれも、理解が深まることで、より楽曲を身近に感じ、楽曲やアーティストに感情移入をするようになっていくことがうかがえる。つまり、楽曲の理解度を深め、楽曲やアーティストへの感情移入がなされることが、楽曲に対する共感性を高めるひとつの要因になりうるということが考えられる。

一方、歌詞解釈後における楽曲の理解度が深まり、楽曲への共感性が低下することは研究当初には想定していない事象であった。共感性が低下した被験者の自由記述の内容を以下に示す。

被験者Bの場合、「もうダメだってことが

よくあるので元気づけられている感じがしてよかった」から「こういう経験がない」へと変化している。

被験者 F の場合、「前向きにさせてくれる」から「励ましになっているとは思った」へと変化している。

被験者 H の場合、「歌詞に共感できる部分が少しあった」から「夢を追いかけている人が聴いたら共感できるのだろうなと思った」へと変化している。

これらの内容の変化では、いずれも理解が深まることで、楽曲と自分との間に距離感を感じてしまい、楽曲やアーティストに感情移入ができなくなってしまう様子がうかがえる。このことから、歌詞の内容と類似した経験を聴取者が有していない場合には楽曲の理解度を深めることで、歌われている内容を想像しにくくなってしまわないかということが考えられる。そして、「自分にはそういった経験がないからわからない」と考えてしまい、共感性を低下させたのではないかと考えられる。

被験者 J は「自分がケガをして、当時やっていたスポーツ活動をやめようと考えていた時のこととともリンクした」と述べており、自身の経験と照らし合わせている様子がうかがえる。しかし、J は現状では「今に満足している」とも述べており、今の自分にはあまり共感できる部分はないとして共感性の得点は 3 となっている。このことから、聴取者自身の経験と楽曲で歌われている内容との類似性が、共感性に影響を与えていることがうかがえる。

5. まとめ

本研究では、楽曲解釈の前後におけるアンケート調査を通して、楽曲の受け取り方および、楽曲への共感性の変化について調査を行った。その結果、楽曲に対する理解度の高さは、楽曲の受け取り方および楽曲への共感性に対してあまり影響を与えないことがわかった。しかし、自由記述の内容から、楽曲を「良い」と受け取る理由についてリズムや曲調といった音に関する要素に対するものから、歌詞の内容やアーティストそのものに対するものへと変化することがわかった。また共感性について、高まった被験者と低下した被験者の理由を分析することで、聴取者に楽曲で歌われている内容との類似経験があることが、楽曲に対する共感性を高めるための要因のひとつになるのではないかとということが示唆された。これは玉木(2022)が“我々

は歌詞がまるで自分のことを歌っているかのように聞こえる時、その曲に共感し元気を得る。(中略)歌詞の内容と自分の現状がリンクしていたりすると自然に共感してしまう”と述べている内容と一致している。

このように我々は自らと楽曲との共通点を見出すことによって、楽曲に共感し、日々音楽を聴いているのかもしれない。しかしながら実際には、楽曲を聴くときに歌詞を事細かに分析し、自らの経験との類似点を探し出すことはしないであろう。楽曲を楽しむ観点は多種多様であり、それら全てが尊重されるべきものである。

また、本稿では被験者の数が極端に少なくそのことは結果に少なからず影響しているであろう。さらに、今回用いた楽曲は応援をテーマにした 1 曲のみであったことも調査結果に影響していたように思える。そのためテーマの異なる楽曲を用いることや、調査項目、調査方法を見直し、引き続き調査を行うことで更なる検証が必要であると考えられる。

引用参考文献

- 細谷舞、鈴木崇史(2010)女性シンガーソングライターの歌詞の探索的分析. 人文科学とコンピュータシンポジウム, pp. 195-202.
- 今井章、石川美咲(2015)楽曲の構成要素が聴取者の感情と EEG に与える影響. 日本認知心理学会第 13 回大会, pp. 162.
- 笠井かほる(2015)学生の歌詞理解について(その 2):「君が代」について. 川口短大紀要, 29, pp. 131-142.
- 森数馬(2010)日常の音楽聴取における歌詞の役割についての研究. 対人心理学研究, 10, pp. 131-137.
- 玉木博章(2022)メディアとしての AKB48 の歌詞の解釈に関する研究-共感という心理的メカニズムと子ども若者の対人意識に着目して-. 日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学研究紀要-現代と文化』, 第 144 号, pp. 75-106.
- 谷口高士(2006)音楽を聴くということの心理学的意味を考える. 日本音響学会誌, 62 巻 9 号, pp. 682-687.
- 坪井眞里子(2020)鑑賞教材における音楽的要素・イメージを観点とした一考察-幼少接続を視野に-. 名古屋女子大学紀要, 66, pp. 213-224.
- 小河妙子、篠田侑大(2016)音楽聴取時における歌詞の有無と共感性が感情変化に及ぼす影響. 東海学院大学紀要, 10, pp. 31-38.

大村英史、他(2013)音楽情動研究の動向-歴史・計測・理論の視点から-. 日本音響学会誌
小槻智彩(2015)メロディを手がかりにした歌詞とタイトルの再生. 日本心理学会第 79 回大会、pp. 826.

Changes in how music is perceived due to differences in image
- Comparison of empathy before and after lyric interpretation -

Kazuki SHIMIZU

【Abstract】

In this paper, we investigate how the interpretation of lyrics affects how we **perceive** music and empathy when listening to music.

In this survey, we conducted a questionnaire survey on how to perceive the music and the empathy for the music before and after interpreting the lyrics and the background of music creation. Moreover, asked for the reason for the answer in free description. As a result, there was no significant difference in how to receive or empathize. However, 3 listeners showed a decline in their ability to empathize, and the reason given was that they had no experience with the content of the lyrics and did not understand them. This suggests that we have a like experience of the song can be a factor in increasing empathy for that song.

【Keywords】

Music、Image、Interpretation、Empathy、How to perceive